

令和8年度切り花ぎく病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山花き振興協会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

【害虫防除】

作業	対象害虫								コ R I A D C	薬剤名	使用方法				注 意 事 項	
	ネキリムシ類 (カブラヤガ)	アブラムシ類	アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ	ハモグリバエ類	ハダニ類	ナミハダニ	オオタバコガ			コナジラミ類	倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期		使用回数
親株管理		○	○							1B	ジェイエース水溶剤	1,000倍(10g)	3.3㎡当たり1ℓ	発生初期	5回以内	マメハモグリバエにも登録がある。
		○	○							1B	ジェイエース粒剤		6～9kg	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。
定植時	○									1B	カルホス微粒剤F [®]		6kg	定植時	1回	作業処理土壌混和
生		○	○							4A	モスピラン顆粒水溶剤 [®]	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
										6	アフーム乳剤	1,000倍(10ml) 2,000倍(5ml)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
			○							4A	ダントツ水溶剤	2,000倍(5g) 4,000倍(2.5g)	200～300ℓ 1ℓ/㎡	発生初期	4回以内	散布。カメムシ類にも登録がある。生育期株元灌水。ナモグリバエにも登録がある。
			○							4A	モスピラン粒剤		3～6kg 1g/株	定植時	1回	植溝土壌混和する。 植穴土壌混和する。
		○										0.5～1g/株	生育初期	株元散布。		
		○								4A	ベストガード水溶剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	
										13	コテツフロアブル [®]	2,000倍(5ml)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	アワダチソウゲンバイ、ヨトウムシ類にも登録がある。
										4A	アクタラ顆粒水溶剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内	※ハモグリバエ類には2,000倍で散布する。
			○	○						1A	オンコル粒剤5		6kg	生育期	3回以内	株元散布。※ミカンキイロアザミウマは9kg/10a
			○							29	ウララ50DF	5,000倍(2g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内	
		○	○						4A	アドマイヤーフロアブル [®]	2,000倍(5ml)	100～200ℓ	発生初期	5回以内	施設栽培で登録があるが、露地栽培では登録がないので注意する。	
育		○							4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(5g) 1,000倍(10g)	200～300ℓ 1L/㎡	発生初期	5回以内	カメムシ類にも登録がある。 灌水。	
		○	○						21A.39	ハチハチ乳剤 [®]	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	白さび病にも登録がある。	
		○	○						1B	ジェイエース粒剤		9kg、1～2g/株	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。	
		○	○						30	グレーシア乳剤	2,000倍(5ml)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。	
期									20B	カネマイトフロアブル	1,500倍(6.6ml)	200～300ℓ	—	1回	[ハダニ類]	
									25A	スターマイトフロアブル	2,000倍(5ml)	200～300ℓ	発生初期	1回	1. 発生初期に防除を徹底する。	
									6	コロマイト水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	2. 乾燥が続く時期は特に発生しやすいため、注意する。	
			○						6	アグリメック [®]	500倍(20ml)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	3. 同一薬剤の連用はさける。	
									20D	マイトコーネフロアブル	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	開花前まで	1回		
									1B	ガードホープ液剤 [®]	3,000倍(3.3ml)	2ℓ/㎡	生育期	2回以内	土壌灌水。ネグサレセンチュウ、ハガレセンチュウに登録がある。	
			○	○					5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍(2g)	200～300ℓ	発生初期	2回以内		
									28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内		
									UN	プレオフロアブル	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。	
			○						28	ヨーバルフロアブル	2,500倍(4ml)	100～300ℓ	発生初期	3回以内		
								30	プロフレアSC	2,000倍(5ml)	100～300ℓ	発生初期	3回以内			

【病害防除】

作業	対象病害							R A C コード	薬剤名	使用方法				注 意 事 項
	白さび病	黒斑病	褐斑病	立枯病	うどんこ病	灰色かび病	白絹病			斑点病	倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期	
定植前				○			○	8F	バスアミド微粒剤 [®]		20～30kg	は種又は植付前	1回	土壌混和。3年連続して伏せ込む場合は必ず土壌消毒を行う。
親株管理	○						○	M3	ジマンダイセン水和剤	600倍(16.6g)	0.3ℓ/㎡	—	8回以内	炭疽病、べと病にも登録がある。
	○							M2	コロナフロアブル	800倍(12.5ml)	0.3ℓ/㎡	—	—	
さし芽時					○			39	ピリカット乳剤	1,000倍(10ml) 2,000倍(5ml)	0.2～0.3ℓ/㎡	発生初期	6回以内	アブラムシ類にも登録がある。
								7	バシタック水和剤75	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内	
生	○	○	○		○		○	M5	ダコニール1000	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	発生前～発生初期	6回以内	密植多肥栽培をさける。
	○		○					1	トップジンM水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	—	5回以内	菌核病1,500倍
	○							11	アミスター20フロアブル	2,000倍(5ml)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
	○				○	○		7	アフエットフロアブル	2,000倍(5ml)	200～300ℓ	発生初期	3回以内	6月上、中旬、梅雨期間中に防除を徹底する。
	○							3	ラリー乳剤	3,000倍(3.3ml)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	EBI剤は耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
育	○				○			アンビルフロアブル	1,000倍(10ml)	200～300ℓ	発生初期	7回以内		
								31	スターナ水和剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	—	5回以内	斑点細菌病に登録がある。発生初期防除を徹底する。

作業	対象病害	対 策
親株管理	きくえそ病	1.発病株は抜き取り、適切に処分する。 2.発病株からさし穂を取らない。 3.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 4.発病株に触れた手で健全株に触れない。
生育期	きくえそ病 (トマト黄化えそウイルス)	1.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 2.被害株は早期に抜き取る。 3.発病株に触れた手で健全株に触れない。
採花後	ウイルス ウィロイド	アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類等の防除を徹底する。 わい化したもの(疑わしいもの)は抜き取り、親株には使用しない。

- 白さび病防除のポイント ～親床から一貫した防除が必要～
 - ① 冬至芽をハウスに伏せこむ時は、出来るだけ展葉していない芽を使う。
 - ② 展葉したのものを使う場合は、下葉は出来るだけ取り除き、白さび病に侵されていないものを使う。
- ハウスの防除では、葉害が発生しやすいので、散布濃度、散布時期等に留意する。

除草剤使用基準

処 理	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量/散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草		特 性
							一年生雑草	一年生イネ科雑草	
処 理 剤 境	トレファノサイド乳剤	3	200～300ml/100ℓ	定植後	畦間土壌散布	1回	○		露地栽培のみ使用できる。 ツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	アグロマックス水和剤	3	200～400g/100ℓ	定植後(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	○		・キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る。
	ゴーゴーサン乳剤	3	200～400ml/70～150ℓ	定植前(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	○		・キク科雑草とツククサには効果が劣る。
処 理 剤 境	ナブ乳剤	1	150～200ml/100～150ℓ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期)	雑草茎葉散布 又は全面散布	3回以内		○	・イネ科作物には葉害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに7～10日必要。 ・広葉雑草及びスズメノカタビラやカヤツリグサに効果がない。
剤 境	バスタ液剤	10	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期(草丈20cm以下)	雑草茎葉散布	3回以内	○		畦間処理。作物に飛散しないように注意する。

◆系統別適用農薬一覧表 ★系統の異なる農薬を輪用で使用する。

殺 虫 剤	分 類	IRAC	殺 虫 剤	殺 ダ ニ 剤
	殺 虫 剤	カーバメート系	1A	◎オンコル
有機リン系		1B	ジェイエース・カルホス・ガードホープ	
ネオニコチノイド系		4A	アドマイヤー・◎アクタラ・ダントツ ◎ベストガード・モスピラン・スタークル	
スピノシン系		5	スピノエース	
マクロライド系		6	アフーム・アグリメック	コロマイト・アグリメック
ピロール系		13	◎コテツ	
アセキノシル		20B		カネマイト
ケトニトリル誘導体		25A		スターマイト
ジアミド系		28	フェニックス・ヨーバル	
メタジアミド系		30	グレーシア・プロフレア	
フロニカミド	29	ウララ		
U	N	UN	プレオ	

注意 ◎印はミカンキイロアザミウマに効果のある農薬です。

殺 菌 剤	分 類	FRAC	予 防 効 果 の み	予 防 ・ 治 療 効 果
	殺 菌 剤	M B C	1	
D M I		3		ラリー・アンビル
S D H I		7	バシタック・アフエット	
Q O I		11		アミスター
硫 黄		M2	コロナ	
ジチオカーバメート		M3	ジマンダイセン	
クロロニトリル		M5	ダコニール	

■合成ピレスロイド剤は蚕、魚類に対する毒性が強いため、桑園、養魚池、河川の近くでは使用しない。モスピラン顆粒水溶剤[®]、アクタラ顆粒水溶剤、アドマイヤーフロアブル[®]、コテツフロアブル[®]、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤は、蚕に対する毒性が特に強いので桑園の近くでは使用しない。